

図書館だより 第20号



自動車文庫の愛称が決まりました

市立図書館では、自動車文庫（移動図書館車）1号車の更新にともない、市民の皆さんから親しまれるよう愛称を募集し、166点の応募がありました。選考の結果、松井幸子さん（市内在住）の「よまんまいかー」（名付けの理由：もっと本にふれあい、読んでほしいという思いを込めて）に決定しました。

たくさんのご応募をいただき、ありがとうございました。

目 次

平成 17 年度 富山市立図書館協議会 質疑応答	2
いちおしライブラリー 第 8 回「輝く毎日のために」	4
地域館紹介 vol.4 「富山市立婦中図書館」	6
山田孝雄文庫の資料 20 「百人一首湖水抄」	7
レファレンスあれこれ	8

平成 17 年度 富山市立図書館協議会 質疑応答

図書館協議会とは

富山市立図書館条例に基づき、図書館の運営に関し、館長の諮問に応じたり、図書館奉仕について館長に意見を述べるため、「図書館協議会」が設置されています。(根拠法令は図書館法 16 条による)

富山市立図書館協議会は、各委員の任期を 2 年とし、本館から選出された 7 名、各地域館から選出された 6 名、公募により選出された 2 名の計 15 名の委員で組織されています。

昨年 11 月 2 日に市立図書館本館 7 階の特別室において、平成 17 年度富山市立図書館協議会が開催され、図書館職員と協議会委員 14 名(欠席 1 名)によって、図書館運営についての説明や質疑応答が行われました。



まず図書館側から、新市の図書館運営ならびに合併効果、図書館界の現状と課題について説明を行ったあと、各委員から次のような質問や意見が提出されました。

< 合併に伴う質問・意見 >

(質問)

市町村合併による課題や問題点はないか。

(回答)

大きな課題としてコンピュータシステムの統合問題がある。

旧自治体でそれぞれ異なる図書館システムを使用しており、また資料コード(図書の登録番号、バーコードにある番号)が重複しており、機器の統合のみならず資料データの統合をも行う必要がある。

また、コンピュータシステムの導入・更新年が古い大山図書館、婦中図書館などでは機器の老朽化による障害も発生している。

図書館サイドの計画では、コンピュータ未導入館、機器の老朽化が甚だしい館などから順次統合を図りたいと考えている。

(質問)

新市誕生後自動車文庫駐車地が 18ヶ所設置されたとのことだが、その具体的な場所と成果を問う。

(回答)

協議会にて配布した資料に基き、個々の駐車地の場所と、4 月～9 月の新規登録者数が 956 人、貸出冊数が 8,420 冊であることを説明した。

(意見)

今後合併町村の図書館との人事交流や、学校図書館司書の研修についても取組んでほしい。

(質問)

合併後選書方法を統一したとの説明だったが、どのような方法か具体的に知りたい。

また、図書館の選書に漏れた本について、利用者の声を反映する方法は確保してあるのか。

(回答)

合併にともない、これまで収集方針を明文化していなかった図書館も富山市として、図書館事業概要の末尾にあるとおり「富山市立図書館資料収集要綱」「同視聴覚資料収集要綱」に基いて収集している。

選書にあたっては、図書の現物による選書を原則としており、毎週新刊本を図書館内に見本として持込み、窓口担当司書により、1 点 1 点についてこの本は購入すべきでこの本は図書館蔵書としては利用が見込まれないなどと理由を挙げながら選書し、その後係長級以上の職員により選書会議を開いて決定している。

利用者からの要望については、「予約」により読みたい本を具体的にあげてもらい、その本について図書館で購入するか、あるいは県立図書館など他館から借用するかを決定している。

(質問)

開館時間が各館まちまちであり、統一が望ましいのではないか。本館が一部の地域館より早い時刻に閉館する日もあるが、不都合はないか。

また本館についてはできるだけ開館時間を長くしてほしい。

(回答)

平成6年度に開館時間延長のための試行をして、その結果により現在の開館時間に決定した経緯がある。またその後平成13年度にも更なる延長のための試行を試みたが、7時以降の利用はきわめて少なく、5時以降にいた利用者がそのまま館内に留まるだけで、利用の増加には結びつかないことが分った。開館時間の延長にともなう経費とその効果を勘案して、現在の春・夏・秋3季に限り午後7時までという時間に落ちついている。

地域館の開館時間については、地域の实情に応じた今後検討してゆくことも必要である。

< 施設・設備に関する質問・意見 >

(意見)

本館は狭くゆとりがない印象がある。合併後の新市全体の地域館や分館を支援する本館として、より規模の大きな充実した本館が必要と思うが、どうか。

(回答)

この本館が竣工したのは昭和45年であり、35年以上経過して建物が老朽化・狭隘化していることは認識している。これまでの富山市議会でもたびたび図書館移転についての質問がでていますが、具体的な移転先などが決っていないため、移転の時期等は不透明である。現在のところ、移転・建設に備えて、全国の先進図書館を視察するなど研究している状態である。

(意見)

本館をいつも利用しているが、駐車場が満車で、待つこともある。新館構想の際には、是非駐車場を広くしてほしい。

(回答)

駐車場対策として有料化も考えられるが、複合施設であるため、利用施設により利用時間の長さが異なるという現状があり、無料時間をどこまでにするかが課題となる。

新館建設の際には、建設の場所によっても、無料とすることが様々な問題をはらんでいる。現に仙台市のセンダイメディアテーク(仙台市図書館)では無料に対して地元の駐車場経営者からの要望があり大きな駐車場をもつことができなかったという事例もあり、難しい問題である。

(意見)

新館建設計画について、次の新総合計画には是非盛りこまれるよう努力してほしい。

< 図書館利用に関する質問・意見 >

(質問)

図書館利用者の立場から、複雑多岐にわたる情報と電子情報の検索に、困難を感じることもあるが、利用指導をどう考えるか。

(回答)

電子情報などのアクセスするための情報リテラシー教育については、学校でも取組まれており、若い世代には問題がないと考えている。高齢者については生涯学習課などがパソコン教室などを開催しており、関係機関とも協力してゆかなければならないと考えている。

図書館の窓口においては、気軽に職員に尋ねていただければ、そのつど職員が説明するようにしている。

(意見)

インターネットにより、地域の情報が全国のどこからも見ることはできるのは、たいへん便利で、すばらしいことである。

インターネットを使用できるひととそうでないひととの情報格差があるが、図書館ではこの格差を緩和してゆくことが必要であろう。

(意見)

各種データベースに的確にリンクしていく方法を、利用者に教えてほしい。ことに医療情報などでは、インターネット上の情報には信憑性に欠けるものもあり、利用者に「正確な知見」を与えられるような図書館であってほしいと希望する。

< その他の質問・意見 >

(質問)

情報提供は高度化している中、子どもの読書離れが進んでいるといわれるが、図書館はどう考えているか。

(回答)

富山市では学校図書館の充実のために図書費として年間約6,000万円もの予算を計上しており、中核市の中で見ても上位であると思う。また、「富山市子ども読書活動推進計画」を策定し、図書館ではこの計画に掲げていることはすでに実施している。

新聞の読書世論調査によれば、むしろ、活字離れが進んでいるのは、20代の若者と50代以降の世代であるとのことである。

(意見)

マナーの悪い利用者がいたり、地域館や分館では図書館全体の行事が分りにくいということもあり、せつかくの図書館の行事が目立たなかったりすることもあるので、掲示やPR活動にも力を入れてほしい。

(意見)

事務組織図をみて仕事が多岐に渡ること、司書の仕事が思った以上にたいへんであることが分る。財政状況が今後もいっそう厳しくなることが予想されるので、貸出の有料化等の問題もでてくるのではないかと思う。

(意見)

今年の夏本館を利用した際に、ちょうど「富山大空襲」の展示をしていたが、探していた資料が揃えてあり、たいへん助かった。このようなきめ細かなサービスが利用者にとっては嬉しいので今後も努力してほしい。



いちおしライブラリー 第8回 ~輝く毎日のために~

明るくさわやかな気分ときは、やる気あって体調もすこぶる良好です。でも逆に風邪をひいているときは、気分も重く沈みがちになります。心と体は、密接につながっているとされています。人間の体も体温が下がると眠くて動けません。反対に、体温が上がると頭(脳)も冴えて活動的になります。

太陽の光を充分浴び、朝食をしっかり食べて、ストレスの多い現代を心身ともに健康的に生きていくための本を紹介します。

『21世紀の健康マニュアル』

中野優著 日本放送出版協会
病気にならないしくみに焦点を当て、健康のメカニズムを知っていれば、どうして普段健康でいられるか、また、どうすれば病気にならずに済むのかも自ずと見えてくるという。



「8つのキーワードとそれらに関連する29のテーマ」及び「健康を守る脳のしくみ」「食事とウォーキングによる健康法」の項目で構成。また、空極の健康法食事編、(食べ方の点検)運動編(ウォーキングパワーの力)も書いてあり、歩くことを生活にとりいれることが最も大切で、歩く習慣さえ身につけば健康は保たれるという。

『中高年の食と健康』 池上保子監修 学研

トマトのリコピンは、ガン予防。納豆のナットウキナーゼは、心筋梗塞や脳梗塞予防。ブルーベリーのアントシアニンは、視力回復とガン・糖尿病予防。

中高年特有の症状におすすしたいレシピや、食材の情報、医学知識や生活上の知恵が満載。

『「満足人生」私のデザイン』

大原健士郎著 三笠書房

日本はいまや平均寿命が八十歳、世界一の長寿国となる。寿命が伸びた分、人生をも楽しむ時間が増えたことになる。



「老いてますますさかん」と

いうことばがあるが、そんな人生を誰もが望んでいる。しかし、定年を迎える年代になると今後の生活や健康、年金のことなどで不安になり、辛いことも多くなる。誰でも年をとると自分には、これから何ができるのかと疑問に思うようになるものだ。

あなたにはやれること、夢中になれることがこんなにたくさんある。七十歳を越えた今、こころの名医として活躍する著者の人生を楽しむ法が書いてある。長ければ長い分人生は楽しい!必ずそう思える1冊。

『ストレスに負けない心と体をつくる本』

村上正人著 主婦と生活社

自分がどんなストレスに陥っているかに気づき、ストレスに負けない心と体をつくるための生活法、食事法、生き方の改善、上手な解消法などが書いてある。



また、生活習慣病にストレスがどのように影響するか、毎日の食習慣の歪みを正すことの重要性、ストレスに打ち勝つ強い心身をつくるために必要な栄養素、食事のとり方、具体的なメニューも詳しく紹介。

菅原明子の作品紹介

菅原明子さんは、健康関係の研究家でもあり、食品栄養などの研究の他、近年ではマイナスイオンの研究に力を注いで一般市民にまでもマイナスイオンの名称を普及させました。

また、世界各国を訪問し、食生態学の調査研究を続け、人間のための食環境作りを西洋・東洋医学の両面から研究しています。

さまざまな観点から健康を考えることができるように次の本を紹介します。

『マイナスイオンが効く!!』 新星出版社

花粉症やアトピーなど健康問題はもちろん環境問題もマイナスイオンが深く関わっている。難しいイオン科学をやさしく解説し、マイナスイオンを取り入れる生活 10ヶ条を是非、実行されてはいかがだろう！

『お母さんの和食がキレイな子をつくる』

講談社

まずは、お母さん自身が健康で、栄養バランスの良い食生活を毎日続けることが大切。

時代の価値観が大きく変わっていく中、現代の子どもたちは、自分自身の価値観を持つことが難しくなっている。ストレス・電磁波・環境ホルモンにおびやかされている現代において、心身を強くするために最も必要なことは、ダイオキシンを体外に排出することである。

そのために必要なものは「食物繊維」と「葉緑素」の二つ。これらを食事としてきちんと摂取することによって、体の中に溜まっているダイオキシンや、食品として入ってきたダイオキシンを体の外に排出することが可能となる。

『免疫力を高める食材&レシピ』 新星出版社

毎日の食事で免疫力高め、身近な食材で病気のもとを断とう！

玄米や小魚、発酵食品などを使った食材別免疫力アップレシピを紹介するほか、風邪の不調や、うつな気分を吹き飛ばすパワー不足の時の救急レシピも収録。



幕内秀夫の作品紹介

幕内秀夫氏は伝統食と民間食養法の研究を行っていて、「食生活の土台は基本食にあり、ご飯、みそ汁、漬けものの組み合わせをきちんとすればある程度よい食生活が保証される」と力説されています。

特に「丈夫な子どもに育ててほしい」と願うお母さん方に、幼児期からの基本的な食事を今一度見直してもらうため、次の本を紹介します。

『子ども元気レシピ』 主婦の友社

誰にでもできる食生活法とは、

飲み物を水かお茶にすること。ごはんをしっかり食べて伝統的な日本食を食べることを実行すれば、子どもも大人も丈夫な体を作ることができるという。家族そろっての基本食を始めてほしい。



『食育 明日からできる 10の提案』

かもがわ出版

子どもが偏食で困っている、野菜を食べてくれない、ごはんばかり食べておかずを食べてくれない…。

若いお母さんたちが誤った常識や情報から解放されることを願って、子どもが元気になる食生活について解説。

『闘病力を強める免疫アップ食事法』

二見書房

ガンから高血圧、糖尿病、婦人病、アトピーまで、様々な病気に免疫力を高める食事法とメニューを公開。病院では教えてはくれない、免疫活性メニューが治癒を促し病気を撃退してくれる。

『粗食のすすめ』春・夏・秋・冬のレシピ

東洋経済新報社

健康を考えた「旬の献立」を豊富に紹介するシリーズ。それぞれの季節感を充分楽しめるレシピ満載。全4冊。



(蜷川分館 深井)

地域館紹介 vol.4 富山市立婦中図書館



富山市立婦中図書館は、婦中ふれあい館の中にあります。婦中図書館は昭和 58 年に婦中町社会教育センターに移転し、平成 10 年に婦中町ふれあい館新築工事の一環として、図書館が改築され二倍の面積となりました。

図書館内は中央にカウンターがあり、オープン事務室となっています。一般書、児童書、参考書、ヤングアダルト、雑誌の五つのコーナーがあり、約四万五千冊の図書と四十人の座席があります。

「ビデオ・CDコーナー」はそれぞれ一人用三台、二人用一台のブースが設置されています。

「えほんの部屋」は図書館の廊下を出て別室となっており、約五千冊の絵本と紙芝居が置いてあります。親子連れでゆっくり絵本を楽しむことができる畳コーナーなどもあり、そのとなりの「おはなしの部屋」では毎週土曜日に、おはなし会が開催されています。

「学習室」は十六席あり、誰でも利用することができます。

駐車場も広く、遠方からも来館される方が増え、土日は家族連れの利用者がとても多いです。

誰でも利用しやすく、親しみのある図書館を目指しています。

(婦中図書館 林)

婦中図書館の概要

所在地 〒939 - 2727

富山県富山市婦中町砂子田 1 - 1

電話 (076)465-4493

F A X (076)466-3114

開館時間 平日：午前 9 時～午後 6 時

土・日：午前 9 時～午後 5 時

休館日 毎週月曜日、国民の祝日

館内整理日(第 1 木曜日)

年末年始(12/29～1/4)

蔵書点検期間

交通機関 ・JR 速星駅 徒歩 20 分

・地鉄バス富山駅発熊野經由八尾行き
速星中学校前下車 1 分

蔵書冊数 一般書：53,684 冊

児童書：24,313 冊

ビデオ 908 点・CD：352 点

沿革

・昭和 50 年 7 月

図書館開館

・昭和 58 年 5 月

現在地社会教育センター内に移転

・昭和 58 年 9 月

図書館協議会を設置

・昭和 60 年 5 月

地区公民館に配本所を設置

・平成 4 年 1 月

県立図書館のオンライン端末設置
(同館の蔵書を検索利用)

・平成 10 年 7 月

ふれあい館工事に伴いリニューアル

・平成 10 年 11 月

コンピューター稼働

・平成 17 年 4 月

平成の大合併により、富山市立婦中図書館となる。

山田孝雄文庫の資料 20 「百人一首湖水抄」

百人一首湖水抄

写本 6巻 慈光寺冬仲述〔江戸中期〕

写 3冊 たて 26.9cm × 18.2cm

外題：湖水抄。巻首題：百人一首湖水抄。

本文每半葉 13行。第1冊 81丁、第2冊 71丁、第3冊 69丁。奥書・識語なし。

この書は百人一首の注釈書である。宗祇の『百人一首抄』経厚の『百人一首抄』細川幽齋の『百人一首抄』がいわゆる古注で、戸田茂睡の『百人一首雑談』（元禄5年1692年成立）、下河辺長流の『百人一首三奥抄』、契沖の『百人一首改観抄』（元禄5年1692年成立）以降が新注である。

この『湖水抄』の成立は、新注が著された時代と同じころ、早くも北村季吟の『百人一首拾穂抄』が成立した天和元年（1681年）以降と思われる。

7丁目には次のような文面がある。

「我師慈光寺中務権大輔冬仲伝来し、其冬仲より伝りし趣を書付れば二条家伝来においては世に恥ざる所なれども其著にあらず、未練不達の身なれば聞き置ける所にも今書付る筆にも誤りのみ多からん。見ん人用捨して我罪をかるめ給へ。此抄は宗祇玄旨〔玄旨は細川幽齋のこと〕の御抄御説を本として著し、近き抄には季吟の拾穂詳しければ多く書出す故、宗祇の御説は祇曰と書き、玄旨の抄は玄曰と書き、拾穂は拾云と一字づつを書き、其外の説には其書其名を略せず書付侍る。予が愚案は水云と書付侍る事老味のしわざ狼藉極まりなし。いかでか人前、打出ださん打出の浜の藻屑を書き集むる筆を江の面にすすげば湖水抄と名付侍る。」



慈光寺冬仲が述べたものをその弟子が聞書きしたものである。慈光寺冬仲は寛永6年（1629年）生まれ、元禄4年（1691年）没である。

国書総目録によれば、同書の所蔵館は内閣文庫、宮内庁書陵部、岩瀬文庫の3ヶ所だけである。いずれも写本のみで、刊本はない。

紺色表紙に金箔を散らした題簽はもとの装丁のままらしくかなり古びて見える。小口には柿渋が塗ってあったものと見え、本文の筆跡も連綿体に慣れた手で書かれており、この書が持つ雰囲気には、大切にされて今日まで伝わったと感じさせるものがある。

（本館 亀澤）

レファレンスあれこれ

今回は年末から年始に寄せられた質問を紹介します。

Q. 幼少の頃に、母親がよく作ってくれた
いわしの「こんか漬け」の作り方を知りたい。

A. はじめは、魚の漬け物の本はないかと言う
質問だったので、料理関係の中から、次のよ
うな資料を提供した。

『新しい保存食 梅干しからおもてなし料
理まで』(文化出版局) 『釣魚料理』(成美
堂出版)。どちらも味噌漬け、粕漬け、南蛮
漬けなど一般的によく作られるものは、掲載
されている。

話を聞いていくうちに、本当に知りたかつ
たのは上記の質問とわかり、郷土関係図書に
載っていると思われるので、調査の結果、次
の資料を提供することができた。

『聞き書富山の食事 - 日本の食生活全 16
- 』(農山漁村文化協会) 『とやまのふるさと料理 秋冬・人生編』(巧玄出版)。どちら
も富山の伝承料理を多数掲載している。懐か
しい味に出会える一冊である。



Q. 知人からもらった年賀状に書かれていた
『九万里中鯤自化 一千年外鶴仍歸』
の意味を知りたい。出典は陸游の作品らしい
が詳しいことは不明。

A. 陸游の作品ということなので、当館に所蔵
している陸游の著作を検索し、次の3冊の所
蔵がわかる。

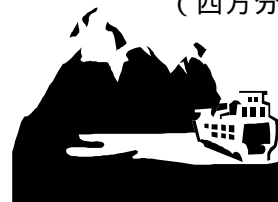
『漢詩体系 19 陸游』(集英社) 『中国の
詩集 9 陸游詩集』(角川書店) 『新修中国詩
人選集 7 陸游・高啓』(岩波書店)。目次な
どでは発見できなかったのですが、各作品を順に見
ていくうち、「寓駅舎」という作品の一部とわ
かった。



Q. 昭和天皇が皇太子時代に詠んだ「立山
の…」の和歌が、歌になっているはずだが、
その作曲者について知りたい。

A. 富山県に関する事項を多く取り上げている
『富山県大百科事典』(富山新聞社)の「立
山御歌」の項に次のように書かれている。
“「たて山の空にそびゆるををしさにならへ
とぞ思ふみよのすがたも」この御歌は、大正
14年歌会始で発表され、県民が深く感激し、
東京音楽学校に作曲を依頼、「ふるさと」の
作曲者岡野貞一がこれに作曲したもの。”ま
た『立山のいぶき』(シーエービー) 『富山
県の今上陛下御製碑』(日本を守る県民会議)
などにも載っている。戦前は、県歌のごとく
に愛唱され、式典などで歌われていたので覚
えている方も多いのでは…。

(四方分館 早瀬)



平成 18 年 1 月 24 日 富山市立図書館 編集・発行 富山市丸の内 1 丁目 4-50 TEL 076-432-7272
HP アドレス <http://www.library.toyama.toyama.jp> E-mail lib-02@library.toyama.toyama.jp